

令和元年度（2019年度）第1回宝塚市国民健康保険運営協議会 会議要旨

日時：令和元年（2019年）8月29日（木）

午後1時30分から3時30分

場所：宝塚市役所3階 特別会議室

報告1 国民健康保険事業の状況（平成30年度決算見込）について

事務局から配布資料に基づき、広域化初年度である平成30年度の決算見込について、収納率の上昇による保険税収入増などの影響で、約4億3,000万円の黒字見込であり、財政調整基金に約11億円積み立てたことなど報告した。

<主な質疑・意見>

- (委員) 保険税収入が予算比で約2億円の増とのことだが、予算額はどのように算出したのか。
- (事務局) 収納率の前段となる調定額を翌年度の推計被保険者数などを基に算出し、別途市で策定しているアクションプランにある収納率を掛けて収納額、つまり予算額を算出する。結果的に実際の収納率がアクションプランを上回った。
- (委員) 収納率が目標を上回ったことは一時的なものなのか今後も継続すると期待できるのか。
- (事務局) アクションプランの収納率は毎年上げていっているが、実際の収納率も上がってきている。今後もアクションプランを下回ることはないよう努力したい。
- (会長) 収納率が上がった理由として何か把握しているか。
- (事務局) 滞納者と預金、給与、生命保険などの資産情報のマッチング、郵送による差押処理という二つの事務効率向上により差押件数が伸びていることが要因だと考えている。
- (委員) 繰越金約13億円は29年度の剰余金なのか、積立額約11億円との差額は。
- (事務局) ご認識のとおり剰余金である。一旦翌年度の歳入として計上し、基金積立を歳出計上する。積立に際し、29年度の国からの交付金のうち概算と実績の差額の翌年度返還分約2.4億円を控除している。
- (委員) 減免額約1億2,400万円は収納率の計算から除外されるのか。
- (事務局) 収納率は減免額を控除した調定額に対する収納額の比率として出している。
- (会長) 収納率は上がっているが近隣市と比べるとまだ低い。これを改善するためには執行停止に注力して収納につながらない調定額を下げること、差押を継続すること、それにより自主納付の風土を作ることが大事。収納率を高める努力をしていただきたい。
- (委員) 近隣市に比べて収納率が低い理由として、収納につながらない調定額の大きさが挙げられているが、それ以外に認識している理由はあるか。
- (事務局) 以前から兵庫県から指摘されているが、資格証明書の未発行や短期被保険者証を活用できていないことは認識しているので、取り組みについて検討していきたい。
- (委員) 基金の合計額が減っていないが累積されとの理解でいいか。
- (事務局) 30年度の黒字分から返還金を控除した約3億円も積み立てられるが、一方で財源不足により約4.2億円を基金から取り崩す予算になっているので、今年度末時点で約10億円と合計額は減になる見込。

報告2 国民健康保険診療施設費の状況（平成30年度決算見込）について

事務局から配布資料に基づき、収支均衡のための一般会計からの繰入が減少傾向にあること、今年度より医科の診療体制を変更し、外来患者数が伸び、診療収入も改善の兆しが見られることなど報告した。

<主な質疑・意見>

- (委員) 国保直診の役割として、診療だけでなく地域包括支援センターや訪問看護ステーションの併設などによる地域包括ケアという役割を付与することも大事。保険者努力支援制度に

も地域包括ケアに関する評価点があり実績点がついているが、どういう取り組みをしているのか。

- (事務局) 歯科保健センター事業としてシニアコミュニティという老健施設で訪問診療、ケアを行っている。今後は医科も含めた取り組みを充実させるため、地域包括センター、社協などを交えた協議を始めている。
- (委員) 規模の小さい医療施設では先生の資質が大きく影響するが、積極的でいい先生が来てくれたと医師会は思っている。できるだけ長くいていただけるようサポートをお願いしたい。
- (会長) 毎年運営協議会で一般会計からの繰入が議題に上がり頭が痛かったが、減少傾向が見えてきてほっとしている。今後もお願いしたい。
- (委員) 生活習慣病に対応できる循環器の専門医に外部から応援に来ていただいているが、医療費の削減のためにも、せめて水曜日午前のみではなく終日診ていただきたいとの希望をお伝えしておく。
- (事務局) 民間の病院に勤務されている有名な先生でお忙しい方だが、水曜日の午前限定でご協力いただいている。一日診療については現場と話をしてみる。

報告3 平成31年度国民健康保険税の改正概要と各市の状況について

事務局から配布資料に基づき、税率は30年度から据え置いたこと、賦課限度額や軽減基準額は法令に合わせて改正したこと、各市の改定状況、宝塚市の税率などが阪神間で依然として高い状況にあること、兵庫県として将来的に保険料統一を目指していることなど報告した。

<主な質疑・意見>
特になし

報告4 平成31年度保険者努力支援制度の結果について

事務局から配布資料に基づき、県平均との比較や交付金の額、各評価指標と得点及び要因など報告した。

<主な質疑・意見>

- (委員) 市が掲げている課題に出てくる「未整理」とはどういうことか。
- (事務局) 地域包括ケアの構築に向けた部局横断的な会議への参加など連携がとれていない、収納率向上のための短期被保険者証や資格証明書の取り組みの整理ができていないことが具体的な内容。次回の申請ではそれらを整理していく。
- (委員) 確実にやれることを実施し、評価点の高いところを中心に零点となる項目がないようにしてほしい。
- (事務局) 今回の結果を受けてすぐに、収納部門や健康部門との点数確保に向けた会議を設けた。今後国がマイナス評価を導入する予定もあり厳しい状況だが、努力していく。
- (委員) 特定健診と特定保健指導に関して他市の事例を参考に保健師を有効活用したほうがいい。
- (事務局) 特定健診と特定保健指導に従事する保健師はいる。評価指標どおり実績を伸ばすことは難しいが、医療機関での健診における受診行動に関するデータ分析と先生への働きかけや、健康センターでの特定健診から特定保健指導に結びつける仕組の構築など取り組んでいく。受診率向上には啓発が第一だが、職員の配置や委託を含めた見直しについて、国保課と話をしている。
- (会長) 予算がないのはどこも似た状況なので、先進市の調査や県への相談などを通じて何かいい知恵がないか模索、工夫してほしい。
- (委員) 保健事業、予防医療が重要になる中、予算も人もある程度投入して体制を整えるべき。
- (事務局) 10年後の未来を見据えた健康づくりは重要なので、市の施策に反映させていきたい。
- (委員) 商工部局との連携を含め個人へのインセンティブの今後の見通しはどうか。
- (事務局) 現在個人へのインセンティブとして優良世帯表彰を実施しているが、評価点に結びつけ

るため、今年度から特定健診などの受診を条件に組み込む予定。

(事務局) 商工部局との連携については、ポイント付与や特産物での還元など予防健康づくりに無関心の方を呼び込む策を検討していきたい。また、他市の事例を参考にウォーキングをポイント化するなどの取り組みも検討していきたい。

(委員) 小規模でない自治体は大変だろうが、健康食品の地産地消につながる取り組みなどで点数を確保してほしい。

(会長) 評価されるポイントを広く解釈して取り組みの実績と予定に適用し、申請してもらいたい。毎年国から求められる基準が上がり、マイナス評価も導入されるとなると努力するしかない。

(事務局) そのような状況を踏まえ、県への相談や内部の担当部局との協議をしながら検討していきたい。

(委員) 意見として申し上げるが、この制度における評価について、例えば地域における歯科の取り組みなどは全国に先駆けて行ったりしているが、一義的に判断することは無理がある。全国的な取り組みで評価しないといけないのは理解できるが疑問は残る。

(会長) それぞれの取り組みについては理解している。わかったうえでこの制度への対策を行っている。

報告5 その他

事務局より、令和2年度の保険者努力支援制度の変更点やそれに向けた取り組みなど、次回の運営協議会の主な内容と日程及び今後のスケジュールについて説明。

<今後の日程>

第2回 令和元年10月中旬～下旬

第3回 令和元年12月中旬～下旬

第4回 令和2年1月中旬

(会長) これで、本日の運営協議会は終了とする。